

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079600377		
法人名	有限会社ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス池尻		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡川崎町大字池尻字亀田887番地の1 (電話)0947-49-3705		
評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年8月9日	評価確定日	9月7日

【情報提供票より】(平成19年7月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	5人, 非常勤 2人, 常勤換算 4人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨木造り平屋建 1階建ての1階部分
------	-----------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000円	その他の経費(月額)	光熱費10,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800円	

(4)利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	0名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	名		
年齢	平均 80.6歳	最低	59歳	最高	89歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	中越医院 / よしかわ歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念として、「個人の尊厳、その人らしい生活、穏やかな安心と満足のある暮らし、家族的な楽しい雰囲気」を掲げている。また、ケア目標として、それぞれの方に「長生きして良かった」と感じて頂けるような場所、ご家族へ「安心して頂けるような場所」を目指し、職員が「笑顔と真心を持って接すること」を心がけ家庭的で穏やかな生活リズムを大切に保ちながら、「時間を拘束しない暮らし」を提供できるように努力されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の異動もあり、サービス評価の意義や目的を理解し、評価の結果をふまえてミーティングや改善に向けての具体的検討、実践につなげる努力をさらに行っていただくことを期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	課題についての改善計画を立て、ケアの振り返りなど見直しが求められる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	職員の異動もあり、サービス評価の意義や目的を理解し、評価の結果をふまえてミーティングや改善に向けての具体的検討・実践につなげる努力が求められる。課題については、改善計画などケアの振り返りやサービス評価を会議への結びつけることが必要である。行政担当者の訪問も再三あり、事業所の実情やサービスの取り組みについては在宅介護支援センターとの協力体制もあるが今後は田川地区包括支援センターとの連携も期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	社会福祉協議会の担当者との具体的な話し合いを行っているが、現状では福祉の援助・金銭管理などでの成年後見制度の利用はない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所の近隣に小学校があり、子供達が遊びに来たり声掛けがあり、地域との「除草・清掃・空き缶拾い・盆踊り・敬老会・神幸祭」など積極的な交流への取り組みがある。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個人の尊厳、地域の中でのその人らしい生活、穏やかで安心と満足のある暮らし。そして家族的な楽しい雰囲気理念とし、できる限り、利用者の家族に負担の少ない介護を実現することに努力されている。		地域密着型サービスとして何が大切であるかを事業所全体で考え、その役割を果たすサービスのあり方を具体的に表す内容を加えることによって、地域密着型サービスとして、より分かり易い理念となると思われる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用の際には、必ず理念を伝えサービス提供場面での声掛け・態度・記録などで指導・教育をし、事業所が一体となってスキルアップできるような体制を整えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の近隣に小学校があり、子供達が遊びに來たり声掛けがあり、地域との「除草・清掃・空き缶拾い・盆踊り・敬老会・神幸祭」など積極的な交流への取り組みがある。		玄関に本日の予定表や「介護相談受けます」等の看板を設置するなどの工夫によって地域との関係づくりをさらに高めることができると思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	課題についての改善計画が求められ、ケアの振り返りなど見直しが必要である。		サービス評価の意義や目的を理解し、評価結果をふまえて、書類の整理や個人別ファイルの作成を検討するなど、日々の業務を円滑・簡略化するための工夫が必要と思われる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。前回の運営推進会議で取り上げられた検討項目や懸案事項について報告し、積み上げていくようにしている。		地域の代表者や保健師の参加がないので、ぜひ要請していただきたい。固定メンバー以外の方々にも呼びかけることで、地域との関係が更に高まり、活性化されると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担者の訪問も再三あり、事業所の実情やサービスの取り組みについては伝えられている。在宅介護支援センターとの協力体制もあるが今後は田川地区包括支援センターとの連携も期待できる。		包括支援センターの保健師に訪問してもらうことによって、認知症の研修を実施したり、アドバイスを受けることができるように思われる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会の担当者と具体的な話し合いはなされているが、現状では福祉の援助・金銭管理などでの成年後見制度の利用はない。		高齢者や認知症の方々の尊厳・人としての権利(人権問題)など、研修の機会が求められ、外部の研修に参加するなど研鑽に努めていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりは、手紙・写真・電話などで伝えている。定期的には、ホームより様子を知らせている。また、ホーム便りも再開して取り組んでいく予定である。金銭管理は月1回家族の訪問時に記録を見ていただき、サインを頂いている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や施設の行事等で常に問いかけや何事でも発言してもらえるような雰囲気を大切にしている。また問題が発生した場合は、介護者全体で検討し、サービスの質の向上に繋げている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までは職員の離職が多く、新しい職員が利用者や家族との信頼関係を築くことが求められているが、利用者への説明や関わりも積極的に行われ配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用に関しては、性別・年齢を基準に採用を決めていない。入居者との年齢がより近くなることで、さらに共感できる関係が構築されていくことを考慮しながら採用を決めている。また新しく採用された職員も生き生きと勤務できる様に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	高齢者のケアに対して、代表者はケア目標なども掲げ、尊重する努力姿勢で取り組んでいる。		履歴書と数十分の面談で、多面的な評価は出来ない。が採用してからのスキルアップで見極めるように努めていただきたい。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21		新しい職員も多く、質の確保・向上に向けた育成が必要であることは理解されており、OJT等で取り組まれている。		今後は研修計画や研修を受ける機会の確保に期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	運営者や職員は老人保健施設や特別養老人ホーム・グループホームなどの経験があり、個別には交流があるが施設としての交流の機会などは図れていない状況がある。		他のグループホームの見学や相互研修会など積極的に取り組まれ、他者の意見など、ケアに活かしてほしい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	家族の希望や協力を最大限に引き出し、見学や相談の受け入れを行うことで、なじみの関係づくりへの取り組みを行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者から畑作りの指導を受けたり、調理方法を学んだり、仲間意識を大切に関係を築く取り組みがある。		生活歴の中から見えてくる動向を個別の援助計画の中に入れておくと、更なる自立の援助のステップとして明確になると思われる。
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	日々の関わりの中での会話から把握に努めている。何事にも介護側の都合に合わせるのではなく、入居者の十分な意思確認をするようにしている。		介護職員全員が共通理解できる介護計画によって、その人らしい暮らしにより近づくことができると思われる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
yoltute					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	チームケアが今後の課題であり、ケアに関わる職員の意見を取り入れ、家族も参加できる介護計画が望まれる。		介護職員や家族が参加する担当者会議を充実させることで、思いや意見をケアプランに反映させることができ、利用者本位の介護計画により近づくと思われる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	現状に即した見直しは今後の課題である。		モニタリングをすることで、介護計画の見直し ケアプラン 介護計画 実施 モニタリングの流れを充実させることで、その人らしい暮らしを提供できるように思われる。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	医療機関への受診・温泉・墓参り・友人宅への訪問や家族、ボランティアや外泊支援など柔軟に取り組んでいる。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医以外の受診も家族の疾患への理解不足で連携が取れていない状況がある。		今後、重度化した場合の対応に関して、服薬管理を含めた医療連携の必要性を本人・家族に充分理解してもらうことが必要と思われる。
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	看取りに関する指針を定められ、家族への働きかけやかかりつけ医との連携を高めることが求められる。		介護し続けるという視点で、本人・家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、家族への働きかけや看取りについての検討が必要であると思われる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	職員の言葉かけは、とても穏やかである。日常の業務の中で、折りにふれて注意がなされおり問題はない。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一人ひとりの入居者の希望や意向を把握し、食事・入浴・外出に柔軟な対応がなされ、体調の配慮・日々の職員の接し方の工夫がなされている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	近隣の野菜のさし入れや菜園の物を利用し、週3回は買い物へ行き、調理・食事・後片付けを一緒に行い、職員も入居者と同じ食事を囲み楽しい雰囲気づくりをされている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入居者一人ひとりが時間帯、回数にとらわれず、何時でも入浴できる体制を工夫されている。入浴拒否される方に対しても、ご本人の意思を尊重し、促しの工夫によって入浴の確保がされている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	日々の生活の中で掃除や草取り・野菜作り・動物の世話など、それぞれに日課として役割を果たす様に支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者がホームの中だけで過ごさず、いつでも積極的に「買い物・散歩・近隣への訪問」や弁当持参での花見やドライブ・ミニ外食会など個別に気軽に外出できる体制がある。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	入居者の自由な暮らしを尊重し、いつでもご本人の意向にそって個別に外出が可能な状況を生みだしている。防犯のために玄関先に番犬を飼っており、鍵をかけない暮らしを実践している。日中は鍵をかけない取り組みがなされている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	地元の消防団との連携が取れており、災害を想定した実戦的な訓練がされており、避難先は池尻小学校がすぐそばにあり、緊急連絡体制も整えている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	一人ひとりの好みやなじみの食器などを使用し、水分やカロリー摂取量・嗜好などをバランス良く個別に対応している。毎日、水分やカロリー摂取量を記録し、定期的に管理栄養士の指導も受けている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	リビングと台所が家族的な雰囲気、料理の匂い・茶碗を洗う音が五感の刺激となり、生活感が感じることができ共有空間の工夫があり、いつでもソファでくつろげる工夫や配慮がなされている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	ご本人・ご家族の意見を取り入れ、安心して生活できる空間として居室づくりがなされている。リビングの居心地が良いためか、昼間居室に閉じこもる方はほとんどいない。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			